

今月の症例 B型大動脈解離に対する新しい治療戦略

亜急性期に行うステントグラフト治療 (preemptive TEVAR)

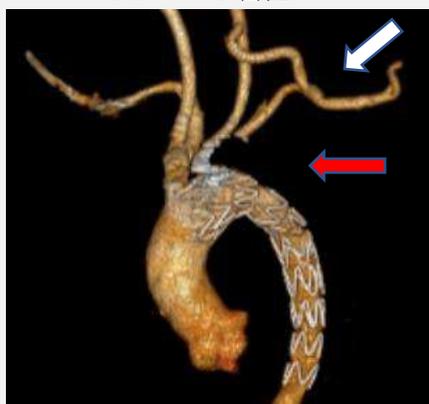
症例：72歳 男性

診断：急性B型大動脈解離 発症約2か月（遠位弓部にエントリー(+)、偽腔開存）

手術：胸部大動脈ステントグラフト内挿術(Zenith alpha)

治療前：
遠位弓部大動脈にエントリー

治療後：
ステントグラフト留置



- ・左総頸動脈-左鎖骨下動脈バイパス(白矢印)
- ・左鎖骨下動脈コイル閉鎖

エントリーを閉鎖することで、偽腔は消失した。

Point ~内科の先生方へ~

B型解離発症後、比較的早期(~1年以内)であれば高い治療効果が期待できます。治療選択に迷われた際は、お早めに、お気軽にご相談ください。



文責 竹内 太郎

スタッフ紹介 Vol.5



崔 容俊 (さい ようしゅん)

医師

心臓血管外科

1992年生 東京都出身

2022年8月に赴任致しました。医師7年目の崔と申します。当院では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患と幅広い心臓・大血管疾患の手術が対応可能です。手術チームのレベルが高く、チームに追いつけるよう日々精進しています。緊急疾患への対応は、当院の得意とするところであり、お困りの際は是非当院へご連絡いただければ幸いです。何卒よろしく申し上げます。

